



2025年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2025年2月7日

上場会社名 株式会社 ほくやく・竹山ホールディングス 上場取引所 札
コード番号 3055 URL <https://www.hokutake.co.jp/>
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 真鍋 雅信
問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理統括本部長 (氏名) 親松 和史 TEL 011-633-1030
配当支払開始予定日 —
決算補足説明資料作成の有無： 無
決算説明会開催の有無： 無

(百万円未満切り捨て)

1. 2025年3月期第3四半期の連結業績（2024年4月1日～2024年12月31日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年3月期第3四半期	220,463	5.4	2,725	14.7	3,299	12.2	2,283	26.4
2024年3月期第3四半期	209,163	5.1	2,376	△11.5	2,941	△9.0	1,805	△25.9

(注) 包括利益 2025年3月期第3四半期 2,290百万円 (△14.2%) 2024年3月期第3四半期 2,669百万円 (△4.0%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2025年3月期第3四半期	107.17	—
2024年3月期第3四半期	82.90	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2025年3月期第3四半期	163,627	62,116	38.0	2,954.78
2024年3月期	147,300	60,684	41.2	2,819.99

(参考) 自己資本 2025年3月期第3四半期 62,100百万円 2024年3月期 60,669百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年3月期	—	10.00	—	10.00	20.00
2025年3月期	—	10.00	—	—	—
2025年3月期（予想）	—	—	—	10.00	20.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無： 無

3. 2025年3月期の連結業績予想（2024年4月1日～2025年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	281,000	2.0	2,840	0.5	3,440	△2.7	2,200	1.1	102.26

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無： 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更： 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2025年3月期3Q	24,400,000株	2024年3月期	24,400,000株
② 期末自己株式数	2025年3月期3Q	3,382,859株	2024年3月期	2,885,976株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2025年3月期3Q	21,306,111株	2024年3月期3Q	21,782,781株

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー： 無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件および業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P.4「1. 経営成績等の概況（4）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当四半期の経営成績の概況	2
(2) 当四半期の財政状態の概況	3
(3) 当四半期のキャッシュ・フローの概況	3
(4) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(セグメント情報等の注記)	10

1. 経営成績等の概況

（1）当四半期の経営成績の概況

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、全体として緩やかな回復傾向にあり、企業収益も改善傾向にありますがそのテンポは緩やかです。一方、地政学的な緊張や米国から端を発する国際的な政治リスクが各種事業やエネルギー価格などにも影響を及ぼす可能性もあり、見通しは不透明な状況が継続しています。道内経済においては、旺盛な設備投資とデジタルやGX関連の投資、実質賃金の改善およびインバウンドの緩やかな回復が道内経済を下支えするとみられます。

このような事業環境の中、当社グループは、事業間連携により地域の実状に沿った社会保障基盤の構築に向けグループをあげて付加価値を創造し、「より健やかな地域社会へ」の実現を目指して取り組みを推進しております。

医薬品卸売事業の株式会社ほくやくでは、業界をリードする物流DXの一環として、11月に函館支店にラピュタロボティクス社のピッキングアシストロボット「ラピュタPA-AMR[※]」を導入いたしました。この最先端のAIロボット技術の活用により、庫内業務の大幅な効率化を実現するとともに、人的資本経営の推進の観点から、従業員の働きやすい環境の整備にも大きく貢献しています。株式会社ほくやくでは今後も、こうした物流DXへの積極的な投資を通じて、医薬品の安定供給体制をさらに強化し、地域医療の発展に貢献してまいります。

介護事業の株式会社マルベリーでは、10月に旭川で開催した福祉用具展示研修会において、新しい取り組みとして障がい者の方向けの体験コーナーを設置し、ご来場者が最新の福祉用具を直接体験する機会を提供いたしました。これまでの介護分野で培ったノウハウや実績を今後は障害者福祉の分野で発揮することで、さらにより多くの人々の快適な生活をサポートしてまいります。

今後とも当社グループでは、物流DXや新規分野への取り組みを通じた競争力強化と企業価値向上に継続的に取り組んでまいります。

※AMR：Autonomous Mobile Robot（自律走行搬送ロボット）

以上の状況のもと、当第3四半期連結累計期間における売上高は2,204億63百万円（前年同期比5.4%増）、営業利益は27億25百万円（同14.7%増）、経常利益は32億99百万円（同12.2%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益につきましては、22億83百万円（同26.4%増）となりました。

セグメント別の経営成績は以下のとおりであります。

（医薬品卸売事業）

医薬品卸売事業におきましては、2024年4月に薬価改定が実施され、6月には診療報酬改定が行われました。後発医薬品における供給面での混乱は未だに継続している状況です。また、10月からの選定療養の影響もあり長期収載品の売上が減少する傾向も依然として続いています。前年同期と比較して新型コロナ関連商品の売上減少やコロナワクチン物流業務受託料の売上が減少するなどマイナスの影響はあったものの、抗がん剤など新薬の販売に積極的に取り組むとともに、10月から接種開始となったコロナワクチンの販売、さらに冬季におけるインフルエンザなどの感染症拡大に伴う関連医薬品の需要増加もあり、第3四半期累計期間における売上は過去最高を達成することができました。利益は、物流コストの削減など経費率の圧縮に全社で取り組んだことにより増益となりました。

その結果、売上高は1,610億64百万円（前年同期比4.9%増）、営業利益は19億12百万円（同42.6%増）となりました。

（医療機器卸売事業）

医療機器卸売事業におきましては、主要なお得意先における手術や検査などの症例件数は引き続き増加傾向となりました。加えて移転施設における新築備品案件の獲得や手術支援ロボットなどの大型医療機器案件の獲得もあり、売上は前年同期を上回りました。利益につきましては商品仕入金額の上昇や販売コストの増加もあり、減益となりました。

その結果、売上高は525億70百万円（前年同期比7.3%増）、営業利益は8億14百万円（同10.7%減）となりました。

（薬局事業）

薬局事業におきましては、売上では薬価改定が2024年4月、調剤報酬の改定が6月と変則的になっておりましたが、処方箋単価は前年同期と同水準となりました。内訳として薬剤料は2%減少、技術料は特に10月からの長期収載品選定療養制度導入による影響で5%増加いたしました。また、前年度の店舗の閉局、および医療機関の閉院等も重なり処方箋枚数は2.5%減少となりました。利益につきましては、処方箋枚数の減少に伴い、減益となりました。

その結果、売上高は96億98百万円（前年同期比3.9%減）、営業利益は83百万円（同26.6%減）となりました。

（介護事業）

介護事業におきましては、福祉用具のレンタル・販売部門および住宅改修と介護ロボットの普及推進各部門で営業員の増員・育成の強化を図りました。また、福祉用具サービス計画の作成提案から納品後のモニタリングの徹底まで、一貫した顧客重視の方針により、売上・利益ともに安定的に推移しました。サービス付き高齢者向け住宅では、新型コロナ、インフルエンザの罹患患者増によるサービスの一時停止もありましたが、売上は前年同期の水準に留まりました。

その結果、売上高は32億30百万円（前年同期比2.8%増）、営業利益は2億37百万円（同8.9%増）となりました。

（ICT事業）

ICT事業におきましては、主力の事業それぞれで設備更新に伴う大型案件を受注したことにより、売上は前年同期を大きく上回る水準で推移いたしました。しかし、物販案件が中心となったことで全体の利益率が低下したことに加え、各種プロジェクトを実行するための体制強化に伴うコストが増加したことも影響し、利益は前年同期を下回る結果となりました。

その結果、売上高は15億33百万円（前年同期比31.7%増）、営業利益は41百万円（同14.9%減）となりました。

（その他事業）

その他事業（子会社の経営指導・保険代理店・SPD・新規開業支援等）におきましては、売上高は15億31百万円（前年同期比1.8%減）、営業利益は4億41百万円（同14.6%減）となりました。

（2）当四半期の財政状態の概況

当第3四半期連結結果計期間末の資産、負債及び純資産は、前連結会計年度末との比較において以下のとおりとなりました。

総資産は1,636億27百万円（前連結会計年度末は1,473億円）となり、163億27百万円増加しました。これは主に、受取手形及び売掛金が90億94百万円、商品及び製品が75億31百万円、建物及び構築物で10億20百万円増加した一方、現金及び預金が28億76百万円減少したことによるものです。

負債は1,015億11百万円（前連結会計年度末は866億16百万円）となり、148億94百万円増加しました。これは主に、支払手形及び買掛金ならびに電子記録債務の仕入債務で157億14百万円増加した一方、未払法人税等が5億39百万円、賞与引当金が2億74百万円減少したことによるものです。

純資産は、621億16百万円（前連結会計年度末は606億84百万円）となり、14億32百万円増加しました。これは主に、利益剰余金で18億57百万円増加した一方、自己株式の取得により4億31百万円減少したことによるものです。

（3）当四半期のキャッシュ・フローの概況

当第3四半期連結結果計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末に比べ28億76百万円減少し、179億36百万円となりました。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果支出した資金は4億90百万円（前年同期は45億26百万円の資金の獲得）となりました。これは、資金の増加要素として税金等調整前四半期純利益35億12百万円（前年同期比19.7%増）、減価償却費8億17百万円（同2.5%増）、仕入債務の増加156億50百万円（同29.0%増）、などがありましたが、減少要素として売上債権の増加91億16百万円（同32.1%増）、棚卸資産の増加75億17百万円（同180.6%増）、未払消費税等の減少3億66百万円（前年同期は5百万円の減少）、賞与引当金の減少2億74百万円（前年同期比18.5%減）、法人税等の支払額13億40百万円（同7.1%増）があったことによるものです。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果使用した資金は14億26百万円（前年同期比35.5%減）となりました。これは資金の増加要素として、事業譲渡による収入1億円（前年同期は実績なし）、保険積立金の解約による収入1億63百万円（前年同期は実績なし）、補助金の受取額1億82百万円（前年同期比83.5%増）などがありましたが、減少要素として、有形固定資産の取得による支出16億77百万円（同22.1%減）、無形固定資産の取得による支出2億43百万円（同110.2%増）があったことによるものです。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果使用した資金は9億59百万円（前年同期比10.8%増）となりました。これは主に自己株式の取得4億31百万円（同34.9%増）、配当金の支払い4億15百万円（同13.0%減）、リース債務の返済63百万円（同4.5%減）があったことによるものです。

（4）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2024年5月15日の決算短信で発表しました通期の連結業績予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2024年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2024年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	20,813	17,936
受取手形及び売掛金	57,409	66,504
商品及び製品	17,824	25,355
仕掛品	11	5
その他	8,084	9,710
貸倒引当金	△29	△26
流動資産合計	104,114	119,486
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	9,437	10,457
土地	11,626	11,584
建設仮勘定	711	633
その他（純額）	728	835
有形固定資産合計	22,504	23,511
無形固定資産		
のれん	851	796
ソフトウェア	451	373
その他	359	487
無形固定資産合計	1,662	1,656
投資その他の資産		
投資有価証券	17,720	17,742
長期売掛金	73	190
長期貸付金	229	183
繰延税金資産	322	294
その他	758	750
貸倒引当金	△85	△188
投資その他の資産合計	19,019	18,973
固定資産合計	43,186	44,141
資産合計	147,300	163,627

（単位：百万円）

	前連結会計年度 (2024年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2024年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	76,015	91,408
電子記録債務	2,488	2,811
1年内返済予定の長期借入金	1	1
未払法人税等	876	337
賞与引当金	974	699
役員賞与引当金	134	96
その他	2,699	2,582
流動負債合計	83,191	97,936
固定負債		
長期借入金	13	11
繰延税金負債	2,184	2,380
再評価に係る繰延税金負債	120	120
退職給付に係る負債	94	69
長期未払金	437	405
資産除去債務	340	343
その他	233	243
固定負債合計	3,424	3,575
負債合計	86,616	101,511
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,000	1,000
資本剰余金	11,821	11,821
利益剰余金	42,970	44,828
自己株式	△2,029	△2,461
株主資本合計	53,763	55,188
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	7,556	7,580
土地再評価差額金	△711	△711
退職給付に係る調整累計額	61	43
その他の包括利益累計額合計	6,906	6,911
非支配株主持分	14	15
純資産合計	60,684	62,116
負債純資産合計	147,300	163,627

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)
売上高	209,163	220,463
売上原価	193,506	203,900
売上総利益	15,656	16,562
販売費及び一般管理費		
荷造運搬費	867	851
給料及び手当	6,691	6,879
賞与引当金繰入額	568	629
役員賞与引当金繰入額	89	96
退職給付費用	278	233
法定福利費	1,121	1,170
賃借料	213	212
貸倒引当金繰入額	6	105
その他	3,443	3,657
販売費及び一般管理費合計	13,279	13,837
営業利益	2,376	2,725
営業外収益		
受取利息	2	2
受取配当金	299	324
不動産賃貸料	107	105
持分法による投資利益	95	90
その他	180	177
営業外収益合計	685	700
営業外費用		
支払利息	0	0
不動産賃貸原価	84	79
遊休資産諸費用	18	35
その他	17	11
営業外費用合計	121	126
経常利益	2,941	3,299
特別利益		
固定資産売却益	0	19
投資有価証券売却益	18	18
事業譲渡益	—	100
補助金収入	99	182
特別利益合計	118	320
特別損失		
固定資産売却損	0	1
固定資産除却損	1	6
投資有価証券評価損	122	99
特別損失合計	124	107
税金等調整前四半期純利益	2,934	3,512
法人税、住民税及び事業税	826	1,016
法人税等調整額	301	211
法人税等合計	1,127	1,228
四半期純利益	1,806	2,284
非支配株主に帰属する四半期純利益	1	0
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,805	2,283

(四半期連結包括利益計算書)
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)
四半期純利益	1,806	2,284
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	847	23
退職給付に係る調整額	14	△17
その他の包括利益合計	862	5
四半期包括利益	2,669	2,290
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	2,668	2,289
非支配株主に係る四半期包括利益	1	0

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	2,934	3,512
減価償却費	797	817
のれん償却額	81	84
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△10	100
受取利息及び受取配当金	△301	△327
支払利息	0	0
持分法による投資損益 (△は益)	△95	△90
固定資産売却損益 (△は益)	0	△18
固定資産除却損	1	6
投資有価証券売却損益 (△は益)	△18	△18
投資有価証券評価損益 (△は益)	122	99
補助金収入	△99	△182
事業譲渡損益 (△は益)	—	△100
売上債権の増減額 (△は増加)	△6,898	△9,116
棚卸資産の増減額 (△は増加)	△2,679	△7,517
仕入債務の増減額 (△は減少)	12,135	15,650
未払消費税等の増減額 (△は減少)	△5	△366
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	△3	△40
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△337	△274
役員賞与引当金の増減額 (△は減少)	△48	△38
未収入金の増減額 (△は増加)	△212	△136
預り金の増減額 (△は減少)	84	82
その他	27	△1,619
小計	5,472	506
利息及び配当金の受取額	305	342
利息の支払額	△0	△0
法人税等の支払額又は還付額 (△は支払)	△1,251	△1,340
営業活動によるキャッシュ・フロー	4,526	△490
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△2,153	△1,677
有形固定資産の売却による収入	0	62
無形固定資産の取得による支出	△115	△243
投資有価証券の取得による支出	△93	△18
投資有価証券の売却による収入	41	41
事業譲渡による収入	—	100
貸付金の回収による収入	12	36
保険積立金の解約による収入	—	163
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	—	△70
補助金の受取額	99	182
その他	△1	△2
投資活動によるキャッシュ・フロー	△2,211	△1,426
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の返済による支出	—	△15
長期借入金の返済による支出	△1	△33
自己株式の増減額 (△は増加)	△320	△431
配当金の支払額	△477	△415
リース債務の返済による支出	△66	△63
財務活動によるキャッシュ・フロー	△865	△959
現金及び現金同等物に係る換算差額	—	—
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	1,449	△2,876
現金及び現金同等物の期首残高	18,022	20,813
現金及び現金同等物の四半期末残高	19,472	17,936

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

1 前第3四半期連結累計期間（自2023年4月1日 至2023年12月31日）

(1) 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント						合計
	医薬品卸売 事業	医療機器卸 売事業	薬局事業	介護事業	I C T事業	その他事業	
売上高							
外部顧客への売上高	146,927	48,596	10,085	3,139	369	44	209,163
セグメント間の内部売上 高又は振替高	6,667	401	9	3	794	1,516	9,392
計	153,595	48,997	10,095	3,142	1,164	1,560	218,556
セグメント利益	1,341	911	113	217	48	516	3,149

(2) 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容（差異調整に関する事項）

利益	金額（百万円）
報告セグメント計	3,149
セグメント間取引消去	△669
のれんの償却額	△65
棚卸資産の調整額	△36
四半期連結損益計算書の営業利益	2,376

(3) 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

2 当第3四半期連結累計期間（自2024年4月1日 至2024年12月31日）

(1) 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント						合計
	医薬品卸売事業	医療機器卸売事業	薬局事業	介護事業	I C T事業	その他事業	
売上高							
外部顧客への売上高	154,849	52,156	9,689	3,226	491	49	220,463
セグメント間の内部売上高又は振替高	6,214	413	9	3	1,041	1,481	9,164
計	161,064	52,570	9,698	3,230	1,533	1,531	229,628
セグメント利益	1,912	814	83	237	41	441	3,529

(2) 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容（差異調整に関する事項）

利益	金額（百万円）
報告セグメント計	3,529
セグメント間取引消去	△700
のれんの償却額	△68
棚卸資産の調整額	△35
四半期連結損益計算書の営業利益	2,725

(3) 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。